

|              |  |                      |
|--------------|--|----------------------|
| 事業名          | 平成 25 年度大学地域連携サミット事業<br>「大学地域連携サミット in 能登」   |                      |
| 活動<br>形<br>態 | 開催場所   | 能登町                  |
|              | 活動人数   | 約 220 名              |
|              | 期間   | 平成 25 年 11 月 8 日～9 日 |
| 活動概要         | <p>「能登の活性化と持続的発展を目指す地域・大学ネットワークの構築」をテーマに大学地域連携サミットを開催した。1 日目は開会式・シンポジウム、情報交換会、2 日目はシンポジウム、エクスカージョンを実施した。シンポジウムでは、能登の伝統文化や里山里海の資源を研究する大学の研究者 7 名がその成果を紹介し、それぞれについて地域の有識者がコメントすることで、内容の掘り下げと情報の共有が図られた。</p> <p>&lt;1 日目&gt; 11 月 8 日（金）</p> <p>○ 開会式・シンポジウム（能登町役場）</p> <p>(1) 基調講演「能登の可能性、生態と文化からのアプローチ」<br/>京都大学名誉教授 高谷 好一 氏</p> <p>(2) 特別報告「世界遺産、ユネスコエコパーク、GIAHS 当の国際認証制度の役割と現状」<br/>横浜国立大学准教授 - 日本 MAB 計画委員会副委員長 - 酒井 暁子 氏</p> <p>(3) 事例報告</p> <p>報告 1 「外から見たあえのこと：文化資源の活用のしかた」<br/>総合地球環境学研究所教授 阿部 健一 氏</p> <p>報告 2 「のとキリシマツツジの研究を活用した地域活性化」<br/>島根大学教授 小林 伸雄 氏</p> <p>報告 3 「学生は能登島の豊かさと問題点に気づくことができるか？」<br/>石川県立大学講師 山下 良平 氏</p> <p>報告 4 「能登における環境配慮型農林業の課題」<br/>金沢大学博士研究員（能登里山里海マイスター育成プログラム担当）<br/>伊藤 浩二 氏</p> <p>報告 5 「能登“祭りの環プロジェクト”～学生たちのまつり参加～」<br/>金沢星稜大学教授 池田 幸應 氏</p> <p>報告 6 「輪島市三井町住民と学生による協働の地域づくり」<br/>東京農業大学講師 栗田 和弥 氏</p> <p>報告 7 「能登人との交流を通じた地域資源の再発見」<br/>東洋大学国際地域学部特任講師 川澄 厚志 氏</p> <p>○ 情報交換会（ラブロ恋路）</p> |                      |

<2日目> 11月9日(土)

○ シンポジウム (のと海洋ふれあいセンター)

(1) 金沢大学能登臨海実験施設の文科省教育関係共同利用拠点認定と今後の展開

- ・「海洋基本法制定による教育への影響と地域社会における臨海実験所の役割」

東京大学教授 赤坂 甲治 氏

- ・「東アジアの大気汚染と日本海への影響」

金沢大学教授・環日本海域環境研究センター長 早川 和一 氏

- ・「金沢大学能登臨海実験施設のこれまでの活動と今後の方向」

金沢大学准教授 鈴木 信雄 氏

(2) 総合討論「能登の持続的発展に向けた地域と大学、研究機関等とのパートナーシップ構築のネットワークづくり」

○ エクスカーション (能登町)

- ・金沢大学能登臨海実験施設

- ・真脇遺跡に見る人といのかの生活史

- ・能登の荘園制度と里山の原風景を歩く